

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【宮原小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 昨年度全国学力・学習状況調査や授業実践等から、基礎的な学力の定着に課題があることが分かった。</p> <p><指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組む時間を効果的に設定していく必要がある。</p>	<p>⇒</p> <p>①「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【朝学習・授業時の実施】。 ②授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【週3回以上設定】。</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童とそうではない児童がいる。</p> <p><指導上の課題> 児童が自己表現する過程の見取り方について一層理解を深める必要がある。</p>	<p>⇒</p> <p>学習活動の中に話し合う活動や共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。 【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」との質問項目において、肯定的な回答の割合が80%以上】。</p>

全国学力・学習状況調査の結果を振り返り(4月) → 結果分析(管理職・学年主任等) → 詳細分析(学年・教科担当) → 分析共有(児童生徒の実態把握) → 職員会議・校内研修等 → 結果提供(2月) → さいたま市学習状況調査 → さいたま市学習状況調査の結果を振り返り(4月) → 結果分析(管理職・学年主任等) → 詳細分析(学年・教科担当) → 分析共有(児童生徒の実態把握) → 職員会議・校内研修等 → 結果提供(2月) → さいたま市学習状況調査

⑤	評価(※)	調査結果の授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	令和6年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国(公立)の平均正答率と比較したところ、国語、算数共に上回る結果であった。国語においては、話し言葉と書き言葉との違いに気付く問題で、課題が見られた。引き続き、みやりんタイム(朝学習)や授業において、ワークシートやドリルパーク等を活用し、言葉の特徴や使い方の基本的な学習の反復・習熟に取り組んでいく。	
思考・判断・表現	令和6年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国(公立)の平均正答率と比較したところ、国語、算数共に上回る結果であった。特に、国語の「読むこと」に関する問題で、人物像を具体的に想像することができるかどうかを見る問題において、正答率が全国(公立)比べて、高い結果であった。全教育課程における言語活動の充実が成果として表れてきている。	

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	朝学習・授業時に、プリントや「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。自己の振り返りができる時間をほぼ毎時間設定しているが、時間内に実施できない時もあるため、タイムマネジメントをしっかりと行っていく。	①変更なし ②授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【週1回以上設定】。
思考・判断・表現	B	学習活動の中に話し合う活動や共同編集を位置付けられた授業は、6割程度であった。さらに協働的な学びを推進していけるよう、活動の中で話し合う活動や共同編集を、単元の中で1回以上位置付けていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)